

長野の林業



スギ挿木作業 ー北信地方

7

No.400 2025

今回の表紙に採用したのは、「長野の林業」第12号(昭和35年(1960年)発行)の表紙です。モノトーンを基調とした、シンプルで直線的なフォルムが特徴の「モダン」なデザインでした。

この号の紙面では、役場の待合室に本誌を置くという「来庁者の待ち時間の有効活用術」が紹介されています。実際に、待合室で本誌を読んだ方から林業改良指導員へ問い合わせがあり、それがきっかけとなって森林経営の具体的な話に繋がったというエピソードが掲載されていました。

特集

長野の林業400号記念特集

トピックス

- ・長野県林業大学校生募集及びオープンキャンパス開催
- ・現場で活躍する林業大学校卒業生の紹介

地域の話

- ・佐久地域

県森連だより

- ・創刊のころの長森連通信を見てみよう 他



長野の林業
フルカラー版

祝!! 本誌創刊からおかげさまで400号を数えました。

本誌「長野の林業」は、森林所有者の皆様などの展望が開ける情報を掲載し、経営意欲等を喚起していただくことと昭和29年に「林業普及だより」として創刊し、昭和33年に「長野の林業」としてリニューアルしてからおかげさまで本号をもちまして400号を数えました。

今までの数々の本誌の表紙から、その歴史を振り返ってみましょう。

長野の林業



監修 長野県林業課 No. 30 1963.3

「長野の林業」No.30 昭和38年(1963年)3月発行
紙面には、「これだけは知っておきたい造林技術のカンドコロ」や苗木生産など造林に関する話題が大半を占めています。



「林業普及だより」No.1 昭和29年(1954年)10月発行
「長野の林業」の前身となる林業普及だよりの紙面の最初は「秋植造林を实行しましょう」からスタートしました。

紙面から当時の森林・林業・木材産業を想う

「林業普及だより」1号から「長野の林業」399号を振り返って、編集を担っていた「当時の主任林業専門技術員(主任SP)の想い」を僭越ながら現在の主任SPが読み解き「き」になるキーワードをピックアップしました。

昭和29年「林業普及だより」第1号 「秋植造林を实行しましょう」

林業普及だより1号の最初にカラマツの植林は秋植えると成績が良いから実行するように促す記載があり、当時も積極的に秋植を推奨していました。また、成長がズバ抜けて優良な精英樹の探索など依頼がありました。

昭和30年「林業普及だより」第3号 「林業技術者の奮起を促す」

当時の下伊那地方事務所長が機関紙である下伊那林業へ下伊那地域の林業の課題を的確に投稿し、それを読んだ県庁の普及係長からの一言「林業技術は自然が我々に色々なことを教えてくれるのであって、自然の教えてくれることがわからないような人は技術者とは云えないと思う」自然を相手にしている林業技術者として肝に銘じる言葉と感じます。

昭和35年「長野の林業」第11号 「植林は資本投資の第一歩」

「今さら植林について技術的な問題を申し述

べることは時代おくれのように思うかもしれませんが、いわゆる林業経営における資本投下の第一事業が植林であるとなれば、この植林は重要な作業であるわけです。」から始まる特集では、苗木の取扱の方法、植穴の掘方、植え付け方法等が詳しく記載してあります。

昭和41年「長野の林業」第48号 「春のおおつ春の植付け」

「春の訪れとともに、苗代、種まき、耕耘、土入れ、植林など、春の作業が一斉にスタートラインに並ぶ多忙な季節となりますが、このうちの重要な仕事の一つである植林、それが自然に即して、生理的になつたものであるか、もう一度反省してみよう。」から始まる特集では、スギ、カラマツは成長が始まる4月中旬より前に植栽を完了することや秋植を勧めています。

昭和44年「長野の林業」第65号 「森林組合強化のために最も必要なこと」

「組合本来の仕事をするにはどうしたらよいのか、これにはいろいろな問題がからみあつていて、なかなか簡単にこうすればよいと云う一発方式はありませんが、今回はどの組合でも組合強化のために最も必要なものを申し上げることにします。先ず、第一に組合がつかんでおらなければいけないことは組合員の所有森林の実態把握という点です」今から50年以上前から同じような課題がありました。



「長野の林業」No.211
平成16年(2004年)2月発行
平成15年、上伊那森林組合に木質ペレット工場が稼働し、伊那市の学校ではペレットストーブを設置しました。



「長野の林業」No.192
平成13年(2001年)1月発行
伊那北小学校の児童の皆さんが学校に隣接する間伐現場を見学。児童たちの“ファー”と歓声が伝わってくる特徴的な表紙となっています。



「長野の林業」No.114
昭和62年(1987年)6月発行
県林業総合センター本館でのカラマツ材の大断面構造集成材を活用した建築風景が表紙となっています。

昭和44年「長野の林業」第66号
造林技術は経済を無視した時代遅れの技術。
「高い苗木を購入し、労働不足の労力で植林し、十年前後で労力賃にもならない立木を伐採しなければならぬ」ということは、いかにも造林技術が経済を無視した、時代おくれの技術のように思われるので次のことを申し上げたい。カラマツの植栽本数は、2,000本から1,700本とし、第1回間伐を20年後に実行し、第1回間伐で収入があるようにしたいものである」今から50年以上前から低密度植栽の提案をしていました。



昭和59年「長野の林業」第106号
森林は社会共通の資産。
「森林は物質的にも精神的にも豊かさを与えてくれる資産としての意味をもっている。そして、それは森林所有者の個人資産にとどまらず、社会共通の社会的資産として大きな意味をもっている」この時代は、森林の公益的機能についての記事を多く掲載しています。
昭和63年「長野の林業」第121号
林業体験マラソンに参加して。
「ザーザーの雨降り、9月25日『林業体験マラソン』がアルプス公園で行われました。このマラソンは、長野県と松本市の協力で行われたもので、日頃なじみの、うすい林業というものを、このマラソン10kmコースで植樹・丸太運び・丸太切りを通して林業に親しみ、少しでも関心をもちましょうと行われたもの

でした」私も学生時代に参加しましたが雨の中、厳しい環境で林業を体験したことを今でも思い出します。
平成3年「長野の林業」第135号
山は子孫のための山。
「一般的には、1ha当たり3,000本の苗木が植林されるところから、山づくりが始まる。これが40年経過すれば1,000本になり80年で500本、100年で200本となる勘定だ。最近長伐期大径材生産が志向されているが、例えば、100年伐期とすれば植林した苗木との差2,800本はどうなるのか。100年後の200本より我々が生きている間の2,800本をお金にすることを考えるべきではないか」今、改めて主伐・再造林を進める中で将来の間伐による収入を含めトータルで林業経営を考えることが必要と感じます。
平成6年「長野の林業」第150号
林業に男のロマンをかける。
「山に木があることは、現金収入のみを目的にするのではなく、森林を造る楽しみ、森林を求めて人が集まる楽しみがあるからだ。この森林を造る自分がある。アイデンティティーの確立なのである。」普及職員の多くはこの方の山づくりに感銘を受けました。
平成7年「長野の林業」第158号
緑への強い執着と自然と対峙する姿勢。
「緑への強い執着とか自然と対峙する姿勢といった表現でよいのかわかりませんが、とにかく、我が国の若い世代の林業技術者が失いがちになっているもののような気がします。『もう同じ過ちはしない。造成してきた森林をどう



「長野の林業」No.384
令和4年(2022年)11月発行
紙面をリニューアル、ネット上で
の配信も実施。
表紙は、狩猟者確保のためのツ
アーの様子です。



「長野の林業」No.318
平成28年(2016年)7月発行
長野県で52年振りとなる全国植
樹祭を県内10ヶ所、式典をエムウ
エープで開催。信州から「木と森の
文化」を全国に発信しました。



「長野の林業」No.295
平成26年(2014年)8月発行
初めての「信州山の日」(7月第
3日曜日)を祝う制定記念イベン
トを安曇野市で開催。信州山の日宣言
や信濃の国を歌って祝いました。

「ある講演会で『いけない四つの『ち』』とい
うお話がありました。無知、愚痴、やきもち、
けち、の四つです。無知は読んで字の如しで。
愚痴は行動する前から『だめ』だとか、『そん
な事は』とか否定なことをいうこと。やきもち、
自分で何もしないのに批判だけはすること。け
ちは、努力や知恵を出すことを惜しむことです。
自分の毎日の行動のなかで、この四つの『ち』
を出さないように行きたいと考えております。」
同感です。

平成12年「長野の林業」第191号

「今、山村はだんだん底力がなくなり、林業
不況も深刻化していますが、あまり悲観しな
いでいよう。マツタケをはじめ特用林産を導入し、
複合経営を図ってみよう。研究機関には大いに
試験研究をしていただき、私達民間と共に前進
してもらいたい。行政からも積極的に協力いた
だき本音で語り合っていきたい。心豊かで潤い
と安らぎのある生活ができるのは山村です。地
球的規模での環境の重要性が叫ばれている今
日、二十一世紀はまちがいなく山村の時代にな
るでしょう。」

やって利用し、維持管理していくのか。これか
ら日本の森林・林業から学ぶことはまだまだ多
いよ。』こう言ってくれた友の顔を思い出しま
す。」改めて、豊かな森林を育成した先輩に感
謝するとともに、これからどのように維持管理
することが出来るかは、私たち今の林業技術者
の責任は重いと思います。

平成11年「長野の林業」第184号

「四つの『ち』」

「信州きこり講座(森林整備技術者養成講座)
始まって2年目に入り、現在も大勢の人が受講
しています。この講座は、森林整備に必要な『造
林』や『経営』、『機械』などの分野について、18
科目50単位を講義や現地で学習し単位を習得す
るもの」きこり講座により、多くの建設・造園
業の方が森林整備に参入していただきました。

令和元年「長野の林業」第357号

「主伐に取り組んで5年程経ちますが、大き
く2つの変化を感じるそうです。ひとつは、以
前の間伐現場では、林内にブルドーザが入って
集材していましたが、主伐現場ではプロセッ
サー、フォワーダなどの高性能林業機械による
作業システムが定着したことです。もうひとつ
は、森林所有者の意識が『間伐から主伐』へ変
化したことです。『うちの山の木も主伐をして
もらえないか。』という依頼が増えてきました。」
林業普及だよりの創刊から約70年が経過し、先
輩が一生懸命に植えた木を大切に主伐・再造林
や育成を行い次の世代に森林資源を引き継ぐた
めに重要な時代を迎えています。

最後に、「長野の林業」にこれまで多くの方
に投稿いただきありがとうございます。まだ
まだ紹介したい投稿は沢山ありますが紙面の都
合上この程度とさせていただきます。お願い
があります。「長野の林業」1号、145号、
156号のバックナンバーが欠損しています。
お持ちの方は「長野県林業普及協会」に一報を
お願いします。500号で逢いましょう。

南木曽林業研究グループ代表田中淳司さんへのインタビュー

南木曽林業研究グループの歩みについて教えてください。

南木曽林業研究グループは設立から48年が経ちました。森林所有者の集まりから始まり、地域の森林・林業に関心を持つ熱心な人々で構成されてきました。所有林の森林整備の仕方について当時の木曽地方事務所との熱心な普及職員に相談したところ、森林所有者による林研グループ活動の提案があり設立しました。

これまでどのような活動を行ってきたのですか

初期のメンバーは、地域の活性化や地域おこしに関心を持つ若手林業関係者が中心でした。特産品の販売や炭焼き、女性部の設立や物産センターの建設、人間未塾による勉強会や講演会、阪神淡路大震災、東日本大震災への復興支援など、多岐にわたる活動を行ってきました。

教育分野での取り組みについても教えてください

長年にわたり、中学生を対象にしたシイタケの植菌体験を実施しています。また、森や自然を大切にすることを育むために、森林での作業体験やヒノキの皮むきから製材された木材を使った木工体験といった活動も行っています。これらの体験を通じて、子どもたちが自然とふれあい、地域に誇りを持つてくれることを願っています。特に、参加した子供がヒノキの皮むきをした時に、「これお父さんの匂いだ」との感想を聞いたときは、この活動をやった本当によかったと思いました。

県の普及職員に望むことは

普及に携わる職員の方が、若者の価値観の変化や地域への関わり方について考えています。今でも担当地域に関わり、活動に積極的に参加している点は素晴らしいと思います。一方で、昔とは異なる若者の考え方に対応するため、若い普及職員の感性やモチベーションを取り入れつつ、地元のしがらみを超えた新たなアプローチが必要と考えます。

これからの活動への抱負をお聞かせください

活動を通じ、人や地域とのつながりを深めることで、次世代への継承や地域の発展につながると考えています。今後も、地域や若者との連携を強化して活動を継続していきます。



南木曽林業研究グループの皆様(S58)



県林業研究グループ協議会長田中忠さんへのインタビュー

160号で田中さんとお父様の写真が掲載されていますが、この写真はどのような経緯で撮影されたのでしょうか？

当時、私はすでに北信地域の県林研の役員をしていて、普及職員との繋がりも深かったんです。林業士の資格は昭和60年度に取得し、その流れで会長も務めました。

素材生産を中心に、主に広葉樹で春からはチップ用材の生産も行っていました。母も集材機の運転が上手で、家族みんなで林業に取り組んでいた時の写真が「長野の林業」に掲載されました。

北信州地域の林業活動と普及職員の役割はどうでしたか

普及職員はイベントの開催や景観整備など、さまざまな面で地域の林業の現場を支えていました。オリンピッククックの際は、道路沿いの枝打ちなども普及職員の号令で行われました。

「北信州で家を作る会」の発足や活動について教えてください

この会は、外材ばかり使われていた時代に地元の木材を見直そうと始まりました。この活動を通じて、今では県産材や国産材の利用が当たり前となり、公共建築や学校にも広く使われるようになってきています。

今後の林業や若い世代への期待を教えてください

若手の担い手が減少しているのは課題ですが、地域のネットワークや知識の継承がこれからも重要だと感じています。山の木がどのように使われるかを理解し、有利な販売につなげる視点が必要です。

普及職員や林業従事者へのメッセージをお願いします

知識がなくても、現場で行動しながら学ぶことが大事です。これからも普及職員によるつなぎ役の存在が重要です。全体の連携によって林業の発展に私も一緒に頑張りたいと思います。



長野の林業 No.160

【信州の木活用課 主任林業専門技術員】

令和8年度 長野県林業大学校学生募集及びオープンキャンパス開催のお知らせ

「自然のなかに心のなかに森林を育てる」学校に入りませんか

長野県林業大学校では令和8年度の学生募集要項を発表したので、本校の現状や特長も併せてご紹介します。

本校では、昭和54年の開校以来、信州大学や県林業総合センターの研究機関等と連携のもと、全寮制による行学一致の教育を行い、本年3月までの45年間に、国や県、森林組合、林業木材関連会社などへ、836名の卒業生を送り出してきました。専修学校林業専門課程へ移行した平成13年度以降の443人の卒業生の進路を見ると、素材生産や木材流通等の民間企業が38%と最も多く、次いで森林組合が22%、公務員が21%となっています。

また、令和8年度からは質の高い学びの機会の提供とともに森林・林業のニーズに対応した未来のイノベーション創出人材の育成を目指して、資格取得(ドローン国家資格など)を含む新設科目を追加し、新たなカリキュラムがスタートします。さらに、進路に応じて選択するコース制を再編(マネジメントコース・スペシャリストコース)とさせることで、新時代の林業人材の育成に努めていきます。



1学年 屋久島研修(ウィルソン株)

本校のPR活動の一つとして「長野県林業大学校オープンキャンパス」を左記のとおり計画していますのでお知らせします。

【長野県林業大学校オープンキャンパスのご案内】

「来て・見て・納得」

左記の日程でオープンキャンパスを開催します。施設を見たり、先輩学生から直接話を聞いたりして、林大の魅力を実感してください。学生さんはもちろん、ご家族や付き添いの方も大歓迎です。

◆開催日及び時間 第1回 令和7年7月26日(土) 9:30～12:10

第2回 令和7年8月24日(日) 9:30～12:10

◆内容 学校紹介、校内見学、「林大のすご技披露」、質問コーナー

個別相談(希望者のみ)

◆申込方法 【事前申し込みが必要です】

QRコード・URLのフォームから、開催日の1週間前までにお申し込み下さい。

なお、申込期限前でも、各開催日とも参加者先着30名で締め切らせていただきます。

詳しくは、林業大学校のホームページをご覧ください。



■長野県林業大学校

〒397-0002

長野県木曾郡木曾町新開4385-1

電話 0264-23-2321

Fax 0264-21-1058

E-mail: ringyodai@pref.nagananlg.jp

http://www.pref.nagananlg.jp/ringyodai/index.html

【令和8年度 募集要項】

◆定員 1学年20名(推薦入学を含む)

◆推薦入学試験

受付期間 令和7年9月26日(金)～10月10日(金)

入学審査 令和7年10月31日(金) 筆記試験(小論文)、人物考査

◆一般入学試験

受付期間 令和7年11月12日(水)～11月21日(金)

入学審査 令和7年12月6日(土) 筆記試験(小論文)、人物考査

*詳しくは、県ホームページまで

https://www.pref.nagananlg.jp/ringyodai/boshu/nyushi.html



昨年のオープンキャンパスの様子(男子寮見学)



現場で活躍する林業大学卒業生の紹介

永島 龍さん

木曾土建工業株式会社木材部
令和6年度卒(第45期生)



問1…林業に就業した理由は？現在どんな仕事に従事されていますか？

私は自然豊かな木曾地域で生まれ育ち、自然と将来は木曾の森林に携わる仕事がしたいと思うようになり、木曾青峰高校森林環境科、長野県林業大学を卒業し、現在は木曾土建工業株式会社の木材部に勤務しており、主に国有林での生産事業や造林事業に従事しています。

問2…日々の業務の中で林大で学んで良かったと感じることは？

林大では実践的な授業で多くのことを学びました。特に林業機械学ではチェーンソーや高性能林業機械などを使用して、実際に林地



永島さんの仕事風景

内での作業を体験しました。林業の基礎となる部分を座学で学び、実習で体験することによって知識と技術の両方を習得することができました。林大での実践的な学びは日々の業務の中でとても役立っていると感じます。

問3…未来の林業の担い手にメッセージをお願いします！

様々な業種がある中でも特に林業はやりがいを感じることができ、いい仕事だと実感しています。私が働いている木曾に限らず全国的に担い手不足が深刻な問題になっていっていると思います。少しでも林業や自然に興味がある人は是非一緒に林業界を盛り上げていきましょう！

新津 清秀さん

南佐久中部森林組合 参事
昭和60年度卒(第6期生)



問1…林業に就業した理由は？現在どんな仕事に従事されていますか？

山村で育った私にとって森林は身近な存在であり、小学生の頃は日々の遊び場として、日曜には溪流釣りを楽しむなど、自然と深く関わりながら育ちました。国有林に勤務していた兄の影響もあり、高校進学後に将来の進路を考える中で自然と林業の道を志すようになりました。

現在は参事として、組合の経営全般に携わっています。特に、カラマツの主伐が進む中で、確実な再造林を実施することにより、持続可能な地域林業の発展に力を入れて取り組んでいます。



新津さんの仕事風景

問2…日々の業務の中で林大で学んで良かったと感じることは？
林大で学んだ知識と技術は、日々の判断や実務の確かな支えとなつていきます。また、在学中に築いた同級生や県内各地で活躍する同窓生とのネットワークは、情報交換や相談の場として今も大きな力となっており、かけがえのない財産です。

問3…未来の林業の担い手にメッセージをお願いします！

林業は森林を育て、資源として活かすことで環境にも貢献する重要な産業です。国産材の活用が進む今、スマート林業の導入などにより働き方も進化しています。一人でも多くの方に担い手として携わっていただき、共に林業の可能性を広げていけることを願っています。



佐久地域

県営林道開設事業 林道田口十石峠線が開通しました

林道田口十石峠線は、佐久市(旧白田町)及び佐久穂町(旧佐久町)の東部に位置し、森林整備の遅れが顕著であった当該地域の森林施業の効率化と促進を図ることを目的とした森林基幹道です。

当林道は、昭和48年に佐久地域の市町村からの要望で、「佐久地域環状林道構想」の一環として開設が計画され、平成3年から国庫補助を活用した県営事業により開設に着手し、佐久市、佐久穂町及び国有林より一部費用負担を頂きながら、延長16・92km、事業費約32億3千万円、着手より33年の期間を経て、令和7年3月に完成しました。

利用区域は2,148ha(内民有林1,620ha、国有林528ha)で、区域内の人工林率は約63%と高く、豊かな森林資源が存在しています。今後は、本林道の開通によりこの地域の森林整備が促進され、地域の活性化に資することが期待されます。



林道活用状況



林道開設区間

【佐久地域振興局林務課】

第63回 神宮式年遷宮御神木祭記念

— 産地特選優良製品展示即売会 — 7月26日(土)・セリ売出8時50分

特殊材入札売り 締切 午後2時30分

出品 300 m³ 保証金 10万円(現金)

- ▲天然木曽檜特選材… 桎盤・板目盤・桎平・厚板・フリッチ
- ▲天然木曽檜構造・造作材… 柱・土台・敷居・鴨居 他
- ▲(高)国木 曽ひのき材… 柱・敷居・鴨居・縁甲板 他
- ▲広葉樹… 敷居・鴨居・框・敷台
- ▲信州プレミアムカラマツ… 桁

◎御買上賞 ◎参加賞 ◎宿泊負担金 お立ち会いの方に進呈致します。

宿泊負担金を希望される方は、前日迄に御連絡下さい。

※ 交通ご案内 名古屋発(特急しなの1号) 7:00→8:22上松着 当市送迎車にご乗車下さい。
※ 市日当日は全ての出荷は致しませんのでご了承下さい。

2025
第58回木材まつり

木之霊神社例祭

AM 8:10



長野県木曽郡上松町

木曽官材市売協同組合

TEL (0264) 52-2480(代) FAX (0264) 52-2324
ホームページ <http://www.kisokan.com>

長野の林業 創刊第400号発刊特別企画



創刊のころの長森連通信を見てみよう。



現在、森林組合系統の取り組みについて「長野の林業」にて掲載している「県森連だより」ですが、2010年3月までは「森連ながの」として長野県森林組合連合会が独自で発行してまいりました。

今回、「長野の林業」が第400号を迎えることにちなみ、第1号が発刊された昭和30年代の森林組合について、当時の「長森連通信」の記事から振り返ってみました。

1960年（昭和35年）における県内森林組合数は173組合（※）と合併が進んだ現在と比べて一村一組合の体制が色濃く、細かく地域ごとに組織されていたことがわかります。また、森林組合制度は1907年（明治40年）の森林法改正からありましたが、独立法として立法されたのは1978年（昭和53年）のことでした。（※森林組合一斉調査結果資料より）

1958年（昭和33年）9月1日

▲飯田木材市場開設を報じる紙面

発行の第191号では、現在は飯伊森林組合飯伊木材共販所となっている、飯田木材市場が飯田市に開設され、初市を行ったことが報じられています。県森連としては開設第一号の木材市場であり、大径の天然カラマツをはじめ優良材や800坪の土場に所狭し



▲土場に並べられた樅積みを見る買い方と優良材

と樅積みされた写真から、その期待と活況ぶりが伺えます。

昭和33年（1958年）8月20日発行の第190号に掲載されている木材市況を見てみると、径級や長さ、材積は尺貫法で表示されており、材単価は一石あたりとなっています。スギの長さ13尺（約4m）の末口10寸上（30cm以上）の材単価が2,800円（3,000円/石とありますので、 $\frac{3,000}{1.07} \approx 2,799$ 円/mに換算するとおよそ10,000円/11,000円/m程度になるようです。当時の物価指数等を考慮すると今より高値で取引されていた様です。

地域の森林資源を活用し、より森林所有者へ還元するという想いは変わらないもので、過去の記事から学ばされるものが沢山ありました。

現在の取り組みが、未来の森林・林業に携わる人々の糧になるようありたいものです。

森 連 通 信 8 昭和33年8月20日

木 材 市 況 表

材種	樹 種	規 格	格 格	備 考
一 般	す ぎ	13尺 5.5下着	2,500 ~ 2,700	10尺材 100円引
		7.5下	2,650 ~ 2,750	ひのき100~150円高
		9.5下	2,600 ~ 2,800	3.0下材と同値
	あかまつ	10.0上	2,800 ~ 3,000	重敷周辺
		13尺 9.5下着	1,900 ~ 2,100	10尺材100円引
		7.5下	2,000 ~ 2,200	6尺材 8掛
素 材	からまつ	9.5下	2,100 ~ 2,300	
		10.0上	2,300 ~ 2,500	
		13尺 6.0下着	1,850 ~ 2,050	10尺材100円引
	け や き	7.5下	1,800 ~ 2,100	6尺材 8掛
		9.5下	2,000 ~ 2,200	
		10.0上	2,200 ~ 2,400	
製 函 材	ぶ な	9尺 13.0上着	2,750 ~ 3,200	電柱製木用
		15.0上	3,600 ~ 4,000	1,2,3.等別による
	フ ロ ン グ	5尺 10.0上	1,900 ~ 2,700	
		15.0上	2,500 ~ 3,000	
は ん の き	ぶ な	4尺 10.0上	1,600 ~ 2,050	
		7尺 15.0上	2,100 ~ 3,000	
	7尺 10.0上	1,600 ~ 1,750		
製 函 材	ぶ な	7尺 10.0上	1,900 ~ 2,200	東海方面
		10.0上	1,600 ~ 1,650	
製 函 材	は ん の き	6尺 4.5上	1,200 ~ 1,300	
		6尺 4.5上	1,200 ~ 1,300	

▲昭和33年8月の木材市況



5月4日長野市の若里公園を会場に「わかさとクエスト」が開催されました。当イベントは、会場に隣接する施設であるホクト文化ホール、県立長野図書館・信州大学工学部、テレビ信州などが協力して開催された親子向け体験イベントで、今回が初開催となり、天候にも恵まれたGW後半ともあり、多くの親子連れで賑わいました。



▲木の種類によって異なる色を選ぶのが楽しい



わかさとクエストで 寄木作り体験!



▲▼完成した作品たち



会場では、子ども達がもの作り体験できる「こどものモール」や信州大学工学部による「ダイヤモンドの構造を教えるワークショップ」、「おひさまコンサート」、「図書館探検」など約20の企画が用意され、当会では、寄木を使った工作体験を「こどものモール」で行い、50名前後の方にご参加いただきました。

あらかじめ寄木にしたもの仕上げのキットか、自分で好きな駒を選んで寄木作りを行う2種類を選んで体験していただきました。

駒を組合わせて自由な発想で形を作り上げる子ども達が、色合いや手触りなど木を楽しんでいる様子が印象的でした。

仕上げに蜜ろうワックスを塗ると深い色合いになり、木材の色の変化を喜んでもらえました。

木を身近に感じてもらえる機会となりました。

会場では、子ども達がもの作り体験できる「こどものモール」や信州大学工学部による「ダイヤモンドの構造を教えるワークショップ」、「おひさまコンサート」、「図書館探検」など約20の企画が用意され、当会では、寄木を使った工作体験を「こどものモール」で行い、50名前後の方にご参加いただきました。

あらかじめ寄木にしたもの仕上げのキットか、自分で好きな駒を選んで寄木作りを行う2種類を選んで体験していただきました。

駒を組合わせて自由な発想で形を作り上げる子ども達が、色合いや手触りなど木を楽しんでいる様子が印象的でした。

仕上げに蜜ろうワックスを塗ると深い色合いになり、木材の色の変化を喜んでもらえました。

木を身近に感じてもらえる機会となりました。

長野県産木材利用促進に関する協定を締結しました



締結式の様子▶

長野県建築士会×長野県建築士事務所協会×JIA長野県クラブ×長野県森林組合連合会×長野県木材協同組合連合会×長野県

『都市（まち）の木造化推進法』に基づく建築物木材利用促進協定を締結します

【県の施策との関連】

- ・住宅向けの県産材利用の促進
- ・川上から川下までのサプライチェーンの構築
- ・森林資源の循環利用の促進

イメージ

【協定締結日】：令和7年5月27日【対象区域】：長野県
【有効期間】：協定締結日の令和12年4月末日

「長野県産木材の利用促進に関する協定」

- ▶ **建築士会・事務所協会・JIA長野県クラブの取組**
 - 会員が建築する建築物において、県産木材を利用することに努める
 - 協定締結者と連携して、植樹活動を行うとともに、県産木材利用の意義やメリット等を情報発信
- ▶ **長野県木材協同組合連合会の取組**
 - 県産木材の供給体制を整え、建築物の建設で求められる品質や量の県産木材製品の安定供給を行う
 - 協定締結者と連携して、木育活動を推進する
- ▶ **長野県森林組合連合会の取組**
 - 建築用材の安定供給体制を整え、建築物の建設で求められる品質や量の県産木材の安定供給を行う
 - 森林資源の循環利用のため、主伐後は確実に再造林を行う
- ▶ **長野県による支援**
 - 取組が推進するための技術的助言や情報提供を行う
 - 本協定に基づく長野県産材利用の取組の情報発信を行う

5月27日、長野県庁で行われた「長野県産木材利用促進協定締結式」に長野県森林組合連合会の藤原 忠彦 会長が出席し調印を行いました。

この協定は、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき創設されたもので、公益社団法人長野県建築士会、一般社団法人長野県建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部長野地域会、

長野県木材協同組合連合会、長野県森林組合連合会の5団体と長野県で協定を締結しました。

川上（林業）と川中（製造等）、そして川下（利用者）の事業者が協定に参画することで、地域材の安定供給に資する、より強固なサプライチェーンの構築され、さらなる長野県産木材の利用促進につながる事が期待されます。

安曇野市三郷のもくりゅう館で、6月24日、25日に森林組合職員を対象とした「職長・安全衛生責任者教育」が開催されました。

この研修会は現場の作業員の安全及び指導・監督能力の向上を目的として平成11年から継続して開催されています。今回は、9組合から22名が受講しました。

森林組合での職務経験もある、RSTトレーナーの横山繁樹氏を講師に迎え、職長の役割や職務、監督・指示の方法等の講義と各議題について学びました。研修はグループワークを進められ作業手順書の作成、危険予知トレーニング(KYT)、リスクアセスメント、チェーンソーによる伐木造材作業に関する作業計画書の作成、長野県内で実際に発生した災害事例の研究を行いました。講義の中で、令和7年6月1日の労働安全衛生規則の改正で盛り込まれた「職場における熱中症対策の強化」についても触れられ、参加者同士の活発な意見交換が行われました。

受講者には後日、労働安全衛生法で定められた「職長・安全衛生責任者教育カリキュラム」に基づく修了証が交付されます。

令和7年度 職長・安全衛生責任者教育



▲労働災害はなくせるか？
全産業の中で最も千人死傷率が高い林業において誰しものが向き合うべき課題だ



▲チェーンソー伐倒の作業手順書を作成する参加者
後進への指導も職長に求められる能力だ



▲それぞれの組合で業務に取り組む中での悩みや課題、工夫など意見交換するまたとない機会となった

Forest コーポネーター

しんくみバザール

**アイテム盛りだくさん！
第32回森林組合購買チラシ**

この度、2025年版の「森林組合購買チラシ」が完成しました。

組合員の皆様にご好評いただいている購買チラシは、近隣の中部・関東の11県森連合同で毎年作成しており、今年で32回目になります。

林業作業で欠かせないチェーンソー防護パンツや振動軽減手袋、山菜狩りやきのこ狩り等に便利なスパイク地下足袋やナタ、ノコギリなどの定番商品のほか、キャンプやBBQなど夏のレジャーにも人気の「パワー森林香」や、オオカミの尿の成分でシカ、サル、イノシシ、クマなどの獣害忌避効果を発揮する「ウルフピー」も好評です。

裏面の「しんくみバザール」は、表面に載せきれなかった魅力ある商品を紹介するほか、地元産材を活用した県内森林組合取り扱い商品を紹介しております。

表裏合わせて約160点ほどの魅力的なアイテムが掲載された「森林組合購買チラシ」は県内各地の森林組合で配布しているほか、長野県森連HPでも閲覧できます。

ぜひこの機会に、森林組合の購買商品をチェックしてみてください！
お求めはお近くの森林組合へ！



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



暑中お見舞い申し上げます



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

緑の担い手

信州上小森林組合

代表理事 石井公彦
組合長

役員一同

緑を育て山を守る

佐久森林組合

代表理事 山岸喜昭
組合長

役員一同

レストラン
四季の味 樹木里

南佐久南部森林組合

代表理事 由井明彦
組合長

南佐久中部森林組合

代表理事 黒澤和夫
組合長

南佐久北部森林組合

代表理事 佐々木勝
組合長

諏訪森林組合

代表理事 藤森良隆
組合長

役員一同

木曾山林協会

会長 越原道廣

役員一同

下伊那山林協会

役員一同

上小林業振興会

会長 羽田健一郎

役員一同

佐久森林林業振興会

役員一同

上小木材協同組合

理事長 小林基英
組合員一同

上田市芳田一八一八一
☎(〇二六八)三五二四〇〇

北佐久木材協同組合

理事長 新井藤弘
組合員一同

事務所 小諸市大字平原四ツ谷原九六七一七
☎(〇二六七)二二二二二〇
FAX(〇二六七)二四一〇六八三

信州根羽すぎ・根羽ひのき

根羽村森林組合

代表理事 大久保憲一
組合長

役員一同



飯伊森林組合

代表理事 佐藤健
組合長

専任代表理事 吉澤悦史

役員一同

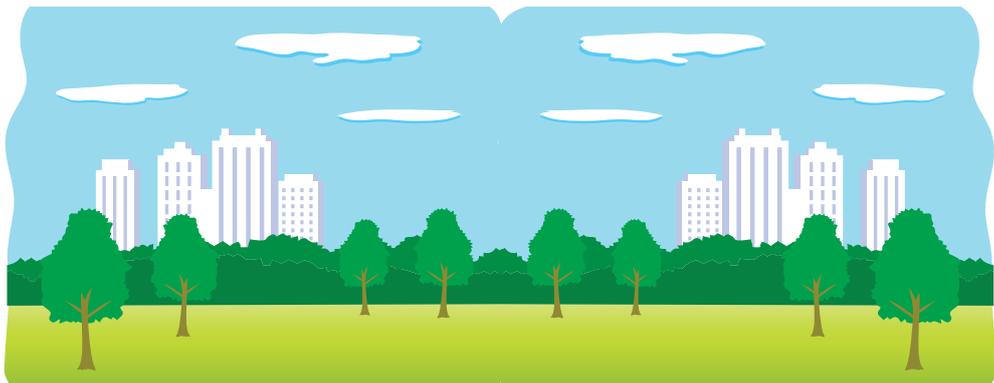
もりもり上伊那



上伊那森林組合

代表理事 白鳥孝
組合長

役員一同



暑中お見舞い申し上げます



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

宮澤木材産業株式会社
代表取締役 宮澤 遥
長野市中曾根二一八八八
TEL(〇二六)三九一〇五八八
FAX(〇二六)三九一〇五八八
森林環境部 FAX(〇二六)三九一三二六〇
FAX(〇二六)三九一三二五二

木材製材販売・住宅資材販売
瑞穂木材株式会社
代表取締役社長 宮崎 淳貴
下高井郡木島平村大字穂高三二一八
TEL(〇二六)八二一三一一八
FAX(〇二六)八二一四一五六

長野森林組合
代表理事 和田 智
組合長 和田 智
役員一同

木曽南部森林組合
代表理事 坂家 重吉
組合長 坂家 重吉
役員一同

北信木材生産
センター協同組合
代表理事 竜野 昭
長野市大字穂保字中ノ配三四二


みどり産業株式会社
代表取締役 篠原 明
本社/長野市大字稲葉二四二三三長野林友ビル
TEL(〇二六)二二四一八七〇
FAX(〇二六)二二三一七九八九

日本林業土木(株) 長野出張所
所長 木村 敏宏
出張所 長野市岡田町三〇一
長野県林業センタービル内
TEL(〇二六)二二七一六一八五

株式会社 吉本
代表取締役社長 由井 正宏
南佐久郡佐久穂町大字平林二二二
TEL(〇二六)八六一四三〇五
FAX(〇二六)八六一五五四四

南木曽町森林組合
代表理事 堀 賢介
組合長 堀 賢介
役員一同

ハイグレード集成材 信州唐松丸
齋藤木材工業株式会社
代表取締役社長 齋藤 健
〒386-0603 長野県小県郡長和町古町四二九四
TEL(〇二六)六八一三五三五
FAX(〇二六)六八一〇二〇二

木曽森林組合
代表理事 原 久仁男
組合長 原 久仁男
役員一同

南安曇木材協同組合
理事長 佐原 良彦
安曇野市穂高七九四〇一二七
TEL(〇二六)七二二二〇〇

松本広域森林組合
代表理事 吉田 満男
組合長 吉田 満男
役員一同

木曽官材市売協同組合
理事長 勝野 智明
長野県木曽郡上松町正高町二四四五
TEL(〇二六)五二二四八〇
FAX(〇二六)五二二四八〇

一般社団法人
日本森林技術協会
長野事務所 所長 油井 章次郎
長野市岡田町三〇一
TEL(〇二六)二二七一六六〇

立木買取り・生産販売・支障木処理
特殊材注文販売・産廃廃棄物処分業
木材森林整備認定事業体
平澤林産有限公司
代表取締役 平澤 照雄
長野県伊那市西春近四一〇五番地
TEL(〇二六)七八一三二二八
FAX(〇二六)七八一五七七五

栄村森林組合
代表理事 久保田 道一
組合長 久保田 道一
役員一同

北信州森林組合
代表理事 山崎 明
組合長 山崎 明
役員一同

信州の木認証合板で
地産地消の緑の循環

針葉樹合板のパイオニア
林ベニヤ産業株式会社
(本社) 06-6228-1401
(七尾工場) 0767-52-4376
(舞鶴工場) 0773-68-0306
(北陸営業所) 0767-52-4376

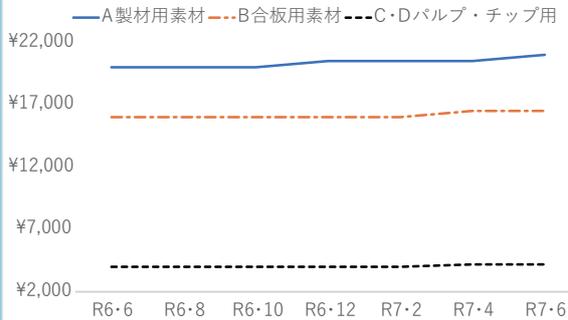


JForest

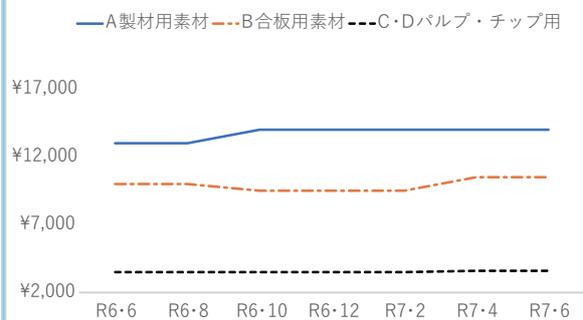
長野県の木材市況



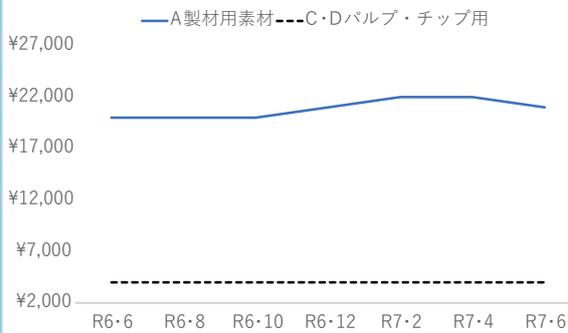
カラマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



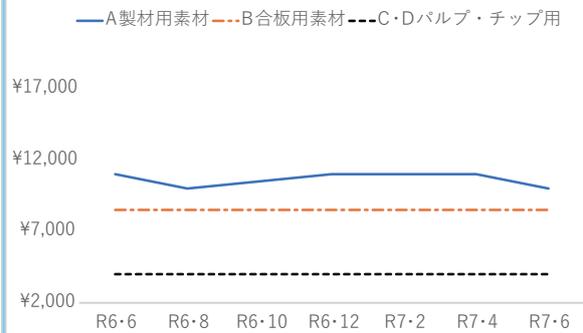
スギ用途別素材立米単価 (円/㎡)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/㎡)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

関東甲信越地方も梅雨に入中、出荷者の皆様にはご出品を頂き感謝申し上げます。

製材用丸太について、ヒノキは3.0mの柱取りが依然として需要低調ですが、24cm上の間柱用材の需要は旺盛です。4.0mの土台取りは変わらず需要があります。引き続き直造材をお願いします。スギは不足感から需要回復傾向です。18～22cmは3.0m、24cm上は4.0mで造材をお願いします。カラマツは継続的な需要が見込まれますので、直造材での出品をお願いします。合板用丸太については、原木不足により需要が回復しましたが、今後の見通しは依然不透明です。引き続き直造材を心掛けてください。広葉樹については、時期が悪くなり、良材であっても価格が伸び悩みましたので、良質材の伐採は可能な限り秋以降に延期をお願いいたします。

造材をするにあたっては長級にも注意しながら極力、欠点(曲り、節、腐れ、二又など)を除く丁寧な造材をお願い申し上げます。受給状況に応じた原木供給の取り組みに向け今後ともよろしくお願い致します。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いします。

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連